

沿革

■第1の源流

明治13年11月15日に大阪商業講習所開所。明治18年、府立大阪商業学校としてスタートし、明治22年大阪市の誕生とともに「市立大阪商業学校」となる。昭和3年に大阪商科大学となる。

■第2の源流

明治41年に市立大阪工業学校が創設され、その後大阪市立都島工業専門学校と名称が変更される。

■第3の源流

大正10年に大阪市立西区高等実修女学校設置。大阪市立高等西華女学校へ改称。のち大阪市立女子専門学校となる。

■第4の源流

昭和19年大阪市立医学専門学校が設立され、昭和27年には、新制の大阪市立医科大学として開学する。

大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校を母体として、昭和24年の学制改革により、商学部・経済学部・法文学部・理工学部・家政学部の5学部からなる新制総合大学として、大阪市立大学は発足した。同年9月大阪市経済研究所（昭和3年設置）が大阪市から大阪市立大学に移管されて、大学附属の研究所となった（平成18年独立法人化の際に廃止）。

昭和28年には、大阪市立大学大学院が創設され、経営学・経済学・法学・文学・理学・工学・家政学の7研究科修士課程及び経済学・法学の2研究科博士課程が設置された。また同年、法文学部が法学部と文学部に、昭和34年には、理工学部が理学部と工学部とに各々分離独立した。そして、昭和30年には、新制大阪市立医科大学を編入して医学部とした。その後、昭和50年には家政学部を生活科学部と改称した。

平成10年には、看護短期大学部を併設した。平成15年には、大学院創造都市研究科が、平成16年には、医学部に看護学科及び大学院法学研究科に法曹養成専攻（ロースクール）が、さらに平成20年には大学院看護学研究科が各々設置された。

このように大阪市立大学は、8学部・大学院10研究科を有するわが国最大規模の公立総合大学となった。

